

## 第4話 中禅寺湖で露天風呂、カラオケ、麻雀を楽しむ の巻

日が暮れる前に難関のいろは坂を攻略すべく、お茶休憩をはしょって中禅寺湖を目指します。くねくねの道に身を任せていると、悪いとは思いつつ、景色も何もいい気持ちの白川夜船、めぐさんの華麗なハンドル捌きのお陰で、気がつけば中禅寺湖でした。

お宿は「四季彩」という、和風ホテル。目を皿のようにして皆で捜しながら来ましたから、到着したときの暖かい出迎えに、一気に緊張がほぐれました。入り口の佇まいも清々しく、エントランスを入ると、ロビーの大きな窓の向こうに中禅寺湖が広がって、思わず息を呑んでしまいました。とても綺麗なホテルで、お部屋には麻雀にうってつけの掘り炬燵までありませんか。これ以上私たちにお誘い向きなお部屋はありません。気の利いた仲居さんが早速ラシャ張りの麻雀卓を届けてくれました。一服した後、温泉へ、そのまま食事の予定で、のんびりお湯を楽しむことにしました。

めぐさんと私はバグーつ、荷物は最小限に抑えましたが、篠ちゃんと麗さんは、ポストンバッグです。準備の差はありありで、お風呂のときにお二方の持ち物は活躍。充実の入浴セットに、充実のお肌お手入れセット、すっかり何もかもお借りしてしまいました。皆で背中を流し合って日々の疲れを流します。篠ちゃんが露天風呂でお客さんと談笑しています。皆でおしゃべりの輪に加わり、自己紹介、保育士さんの集まりという方々はこちらのネット仲間という紹介に驚いていらっしゃいました。極楽極楽。

食事は懐石風のもてなし料理が、次から次から運ばれてきて、目にも舌にも最高の喜び、最後の生麩のデザートは、食感の面白さとお皿の模様の面白さが印象的でした。満足しきってお茶を頂いていると、なんと「お刺身を出し忘れていました」と、平身低頭の番頭さん。もうお腹はいっぱいですから、後でお部屋に届けて頂くことにして、カラオケルームへ移動。麻雀の前にカラオケです。

篠ちゃんはお嬢さんと特訓をしてきたというし、麗さんも落ち着いた様子で曲を選んでいきます、私は全く経験がありませんから選びようもありません。様子を見てみると、知っている曲ばかり、愉快的気分と一緒に歌っていると、篠ちゃんが私には男性の曲の方が合うとアドバイスしてくれました。めぐさんは、歌手みただし、麗さんも難しい歌をご存知です。篠ちゃんもいっぱい歌えます。私は皆の歌を全部一緒に歌いましたから喉が痛くてガンになって死にそうになりました。いよいよお部屋に戻ってお待ちかねの麻雀です。

お部屋に戻ると同時にお刺身とビールが届きました。ビールはお詫びの印だそうです。めぐさんが用意してくださった牌は真っ黒で、初めて見る模様のおしゃれな代物でした。全体が真っ黒ですから白は白と書いてあります。ところが白が1枚紛失したということで、きらきら光る丸いクリスタルが象嵌された、宝石のような牌を代わりにしました。篠ちゃん、盲パイが可能だと、皆を警戒させましたが、触ってみたら誰にでもわかりますか



ら問題は無いと言うことにしました。でも  
うっかりすると1ピンと勘違いしてしまい  
そうです。さて、「J」のルールと親流れ2本  
場という北海道ルールで、ゲームを開始、  
一度危ない瞬間がありました、私の親の時  
です。中を切って始まったのですが、対面  
のめぐさん「ああ落っこちちゃった」と言  
って、捨てた中を積もっていきました。私  
はボーッとしていて気がつかず、篠ちゃん  
が間違いに気付いてくれました。それ以外

にチョンボも無く、半荘3回を楽しんでお蒲団に入ったのは2時を回っておりました。結  
果ですか、車で十分な睡眠を取った私がトップだったような、起きていたのは私だけだっ  
たのかもしれない。

続く